

JASMA 会報

2022年7月発行（季刊）一般社団法人日本縫製機械工業会

CONTENTS

| | |
|-----------------------------------|---|
| 1.第53回定時総会開催 | 1 |
| 2.定時総会后名刺交換会 | 2 |
| 3.ソーイング体験コーナーで家庭用ミシンの利用普及をPR | 4 |
| 4.第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール作品募集中 | 5 |
| 5.JASMA部会・委員会・WGの紹介 | 5 |
| 6.お知らせ | 5 |

1. 第53回定時総会開催

〔2022年6月3日（金）、15：00～（一社）日本工業倶楽部〕

当工業会の第53回定時総会を（一社）日本工業倶楽部4階第4会議室で開催し、下記の議案を審議・報告しました。

当日は、ご来賓として経済産業省 製造産業局 産業機械課 石澤みなみ係長にご臨席いただき、議事最後に直近の政策課題についてご説明をいただきました。定時総会に先立ち、12時30分から正副会長会議を開催し、定時総会の議案等について審議しました。



内梨 会長

<第53回定時総会>

| | |
|--------------------------|----------------------------|
| 議題1. 2021年度事業報告について【審議】 | 議題8. 共通基盤ネットワーク研究会について【報告】 |
| 議題2. 2021年度決算報告について【審議】 | 議題9. 今後のスケジュールについて【報告】 |
| 議題3. 2022年度事業計画について【審議】 | |
| 議題4. 2022年度収支予算について【審議】 | |
| 議題5. 理事選任について【審議】 | |
| 議題6. 工業会規定の変更・追加について【審議】 | |
| 議題7. JIAM展について【報告】 | |

今後の主要な行事等は以下のとおりです。

| 会議・行事等 | 日時・場所 | 議題 他 |
|------------|---|---|
| 正副会長会議 | ①2022年10月12日（水） ②12:00～13:45 ③ホテルグランヴィア大阪 | ①第170回理事会の審議・報告事項 他 |
| 第170回理事会 | ①2022年10月12日（水） ②14:00～16:00 ③ホテルグランヴィア大阪 | ①2022年度上期の事業概要について ②2022年度下期の事業について ③JIAM展について 他 |
| 正副会長会議 | ①2023年1月24日（火） ②11:00～12:30 ③日本工業倶楽部 | ①2022年度予算執行状況について ②2023年度予算について ③第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール事業について 他 |
| 2023年賀詞交歓会 | ①2023年1月24日（火） ②13:00～15:00 ③日本工業倶楽部 | ①新年賀詞交歓会 |

※今後の新型コロナウイルス感染症の状況により変更する場合があります。

2. 定時総会後名刺交換会

〔内梨会長挨拶〕

1. はじめに

(1) 本日は、ご多忙のところ第53回定時総会後名刺交換会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、ご来賓として、平素、当工業会の事業に対してご指導をいただいております経済産業省の安田(やすだ)課長をはじめ、多数の会員の皆様にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症変異株の脅威は継続しておりますので、残念ながら、懇親会ではなく名刺交換会として開催させていただきました。会員の皆様と直接お会いする機会が2年間ございませんでしたので、限られた時間ではありますが、会員相互の親睦と意見交換ができましたら幸いです。

(2) ロシアによるウクライナ軍事侵攻により、多くの住民が負傷し死亡するという報道を聞き心が痛むばかりです。改めて哀悼の意を表すと共に、早期の終結を強く望むところです。

2. 経済状況

(1) 世界経済

さて、世界経済の状況ですが、ワクチン接種が進んだ米国では経済回復がみられ、ユーロ圏でも持ち直しの動きとなっています。一方、これまで順調に経済回復を図ってきた中国では感染再拡大を受けてゼロコロナ政策による経済活動の制限により、生産や物流が停滞しており、世界経済への影響が心配されるようです。

今後は、ウクライナ情勢の長期化に伴う影響、米国・中国間の貿易戦争に加え経済安全保障の影響、東アジア地域での緊張状態の行方には、継続して注視していくことが必要です。

(2) 日本経済

我が国経済は、2022年3月期の上場企業業績が、コロナ禍から経済再開が進み好調であったものの、今年度はウクライナ情勢による不透明感がみられる中で、原材料・資源価格の上昇による物価高、米国による金融引き締め動き、上海地区を始めとして中国ロックダウンによる生産・部品供給などサプライチェーンへの影響が懸念されます。

幸いにも、感染者数は減少のようであり、多くの国民へのワクチン接種が進み、経済活動が元に戻ることを念じております。

(3) 業界概要

我々縫製機械の分野においては、我々のお客であるアパレル・ファッション産業は、コロナ禍

による一昨年の状況から回復しつつありますが、カジュアル衣料やSDGs(持続可能な開発目標)対応などに象徴されるような新たな環境変化やニーズに対して迅速な対応が今後も必要と思っております。

SDGsについては、その考えが浸透し、大量生産大量廃棄から多品種少量生産への対応が必要となり、これまで以上に生産性の向上や省力化が求められます。我が国の高品質・高付加価値の作りが世界市場で求められているものと考えております。

今後は、デジタル変革を念頭に、2050年の脱炭素社会を見据え、今まで以上にスピード感を持って技術開発に取り組む必要があると思っております。

3. 工業会活動

このような中、当工業会の活動についてご説明したいと思います。

① 初めに「展示会事業」についてです。既報の通り、**JIAM 2022 OSAKA**は、本年(2022)年11月30日(水)～12月3日(土)の4日間、インテックス大阪において、テーマを「**JIAM**からつながる...～次世代技術と匠の技のコラボレーション～」として、開催いたします。

本年4月末まで出展者募集を実施しまして、国内外から出展者数136社(前回158社)、小間数903.5小間(前回1106.9小間)(5月19日現在見込み)となっております。コロナ禍ということもあり出展者数、小間数とも前回は下回っております。本日、ニュースリリースを配布しておりますのでご覧下さい。

JIAM展が2020年から2022年に延期となり、今後とも、美馬実行委員長を中心に実行委員会及びWGにおいて、来場者誘致を本格化させるとともに、8月の出展者説明会などを経て開催する予定です。

会員各位、関係者の皆様から引き続きご支援、ご協力の程をお願いいたします。

② 2点目は、「家庭用ミシン事業」についてです。

昨年度も、多くの災害があり、またコロナ禍ではありましたが、応募点数3,689点(前回比148.6%)、応募校数637校(前回比153.5%)と大幅に増加しました。3月5日に第42回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールの表彰式を昨年同様オンライン形式で実施し、受賞された子供さん達の元気な顔を拝見できたことは大変嬉しく思っております。

本年度も、昨年度と同様に、第43回ホームソー

イング小・中・高校作品コンクールの応募要領を4月から順次、配布しております。今回から生徒さんの関心が高いSDGs特別賞を設けました。4月には3年ぶりに日本ホビショーが開催され、工業会ブースではソーイング体験を実施し、3日間で107名の方々に参加いただいたところです。また、8月には霞ヶ関子どもデーの開催が予定されております。関係者各位のご協力をお願いいたします。

これらの事業がミシンを使ったモノ作りの裾野拡大につながることを期待しております。なお、ソーイングに関するイベント情報などを発信する「ソーイング大好き」も引き続き活用していく所存です。

③3点目は、「共通基盤ネットワーク研究会」についてです。この2年間(2020年度、21年度)は、会員共通の課題抽出に向けた技術課題などを専門家からお聞きしてまいりましたが、今年度は、本来の目的である共通基盤を作る上で必要となる「共通フォーマット」の作成を進めることにし

ております。既に事前検討を主要なミシン会員とCAD会員で会合を重ねておまして、研究会の中で情報共有を図り意見交換を進めることとしております。関係各位のご指導、ご協力をお願いいたします。

また、これまでのような専門家による講演を聞くだけでなく人材育成という観点から、講演を基に若手社員向け研修をオンラインで8月に行うことも予定しておりますので、多くの会員の参加をお願いいたします。

4. おわりに

最後になりますが、今後とも、政府および他業界とも連携し、業界の発展に資するという当工業会の目標達成に向け取り組む所存です。引き続き、会員企業の皆様方からのご支援、ご協力を賜りたく、お願いいたします。

当工業会の益々の発展と会員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げまして私の挨拶といたします。

ありがとうございました。

〔経済産業省 製造産業局 産業機械課 安田課長 挨拶〕

只今、ご紹介にあずかりました経済産業省製造産業局産業機械課 安田と申します。本日は日本縫製機械工業会様の定時総会後の名刺交換会にお招きを頂きまして、誠にありがとうございます。また定時総会が無事に終わられたと伺っております。誠におめでとうございます。この名刺交換会の開催にあたりまして、一言お祝いのご挨拶をさせていただきます。

いまだ新型コロナウイルスによる国民生活、あるいは経済活動への影響が残っていると考えておりますが、一方で6月から水際措置の緩和も始まり、経済活動再開の動きも出てきていると考えております。

こうしたことが可能になりましたのも、企業の皆様方によりますワクチンの職域接種、あるいはテレワークの推進、時差出勤などの活動にご協力をいただいた賜物であると思っております。改めまし

て、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

一方、ここにきまして、ロシアによるウクライナ侵攻から、世界は苦境の時代を迎えていると考えております。またコロナ禍でサプライチェーンにも混乱が生じておまして、原材料、あるいはエネルギー価格の高騰、もしくは半導体含めあらゆる材料の不足といった課題が、企業の皆様の行先にも影響を及ぼしていると認識をしております。経済産業省ではこうした状況に対しまして、中小企業様向けへ資金繰り支援の他、様々な政策をご用意させていただいております。

また、先ほど会長のご挨拶にもありましたけれども、米中と主要国の戦略的な物資、あるいは重要技術の獲得というものにおきまして、大きく産業政策を打ち出してきております。こうした状況におきましては、経済と安全保障という密接不可



欠な領域内では、企業一体となって政策を進めていく必要があるという認識しております。

これを受けまして、国会での政策におきましては、経済安全保障推進法を成立させていただきました。この法律に基づきまして、今後業界の皆様と連携させていただきながら、経済安全保障化を進めて参りますけれども、その中の取り組みといたしましては、国民生活、あるいは経済活動に甚大な影響となる物資の安定供給の確保、あるいは先端的重要技術の開発といった取り組みを進めて参ります。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、リモートワークなど日常生活におけるデジタル化が浸透してきたというのもございまして、デジタル庁も新設させていただきました。社会全体でデジタル化が進んでおります。

こうした中、我が国の製造業におきましては、企業の生産性向上、そして新たな付加価値の創出におきまして、デジタルトランスフォーメーションにより一層のデジタル技術を活用していくことが求められているという認識しております。そうした中、日本縫製機械工業会におかれましては、先ほど内梨会長からのご挨拶にもありましたが、共通基盤ネットワーク研究会の取り組みを指導させ

ていただいております。今年度は縫製機械関連の生産工程のデータ、共通フォーマットの検討化などいよいよ本格的に進められると伺っております。

こうしたデジタルトランスフォーメーションを加速するというのは、製造業、そして縫製機械産業のこれからにとって非常に重要な取り組みであると考えております。

また本研究会で、初となります若手社員向けの研修も行われると伺っております。是非ともこうした一連の取り組みにおきまして、今後、デジタル機械産業の競争力がグローバルに高まっていくことを期待しております。

新型コロナウイルスやウクライナ情勢など、引き続き注視が必要な状況ではありますが、経済産業省におきましては業界の皆様と連携しながら、我が国の製造業、そして縫製機械産業の成長のために全力を尽くさせていただく所存でございます。

最後に日本縫製機械工業会、および会員企業の皆様のごさらなるご発展、そして本日ご列席の皆様方のご健勝をお祈りさせていただきまして、私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

3.ソーイング体験コーナーで家庭用ミシンの利用者普及をPR

ー2022日本ホビーショーへの出展ー

家庭用ミシンに親しむ場を提供することにより、ホームソーイングの普及促進を図ることを目的に、3年ぶりに開催された2022日本ホビーショーにJASMAブースを出展しました。開催期間は、4月27日(水)～4月29日(金・祝)の3日間。東京ビッグサイトで開催され、多くの来場者が訪れ大盛況の中行われました。

JASMAブースでは、第42回ホームソーイング小・中・高

校生作品コンクール経済産業大臣賞受賞作品(5点)を展示するとともに、表彰式の様子をビデオで放映しました。更に、ソーイング体験コーナーでは、家庭用ミシン4社による「キャラメルポーチ」の制作体験を行い、3日間で107名の参加がありました。女性を中心とした多くのホビー愛好家が訪れ、JASMAブースではお子さんや男性など幅広い方々に体験していただきました。



4. 第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール作品募集中

全国の小・中・高校生を対象とした「第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」の作品を募集しています。詳細については当工業会ホームページをご覧ください。

1. 応募部門:

- (1) 小学生の部(4・5・6年生)
部門は特に設けていません。中学生、高校生の全ての作品部門を含みます。
- (2) 中学生の部
 - ① 小物・インテリア作品部門
 - ② 衣服作品部門
 - ③ リメイク・デコ作品部門
 - ④ アニメ・ゲームキャラクターコスチューム作品部門
- (3) 高校生の部
 - ① 小物・インテリア作品部門
 - ② 衣服作品部門
 - ③ リメイク・デコ作品部門
 - ④ アニメ・ゲームキャラクターコスチューム作品部門

2. 応募作品、応募方法などについては、当工業会ホームページ(<https://jasma.or.jp>)をご覧ください。なお、高校生の応募は、写真による選考を行ないますのでご注意ください。

3. 締切: 2022年10月31日(月)

4. 応募先・お問い合わせ先: 一般社団法人日本縫製機械工業会「第43回作品コンクール」係
TEL.03-6435-8190 FAX.03-6435-8192

Eメール: info@jasma.or.jp

URL: <https://jasma.or.jp>



5. JASMA部会・委員会・WGの紹介

JIAM 2022実行委員会は10社12名からなる委員構成で、JIAM 2022の企画、運営等を含めた全般に亘る事項について検討しています。WGは8社10名からなるメンバー構成

で、実行委員会からの要請に対して検討を行い、その結果を報告するとともに、実行委員会に対して企画等の提案を行っています。

6. お知らせ

● 経済産業省 製造産業局 産業機械課の異動

当工業会の担当係長が異動となりました。

5月11日付

いしざわ
石澤 みなみ

(新) 製造産業局 産業機械課 係長

(旧) 大臣官房長室(官房長秘書)

岡田 淳

(新) 商務サービスグループサービス政策課
課長補佐(サービス産業・企画)

(旧) 製造産業局 産業機械課 係長

JIAM 2022 OSAKA News Release

当工業会が主催する国際アパレル機器&繊維産業見本市(JIAM 2022 OSAKA)が、2020年の新型コロナウイルス感染症による世界的な感染拡大を受け見送りとなり、本年11月30日(水)～12月3日(土)の4日間、インテックス大阪4・5・6号館で、6年ぶりの開催となります。

本見本市のテーマは、「JIAMから、つながる...~次世代技術と匠の技のコラボレーション~」。国内外メーカーの最先端技術・製品・サービスが一堂に集結し、大きな注目を集める本見本市は、開催まで5ヶ月余りです。

※詳細については、別添の「JIAM 2022 OSAKAニュースリリース」をご覧ください。

編集後記

猛威を振るったコロナ禍も多少の落ち着きを見せ、社会、経済活動も平時に戻りつつあります。工業会の活動も対面で行うことができるようになりました。オンラインも便利ですが、やはり対面で直接交流する機会は大切だと思います。

燃料費をはじめとする諸物価の高騰や、急速な円安、ロシアによるウクライナ侵攻など大きな問題が山積していますが、会員企業が協力して、JIAMに向けて引き続き前に進んでいきたいと思えます。(H.F)

JASMA 会報

Vol.19 No.2 2022年7月26日発行

一般社団法人日本縫製機械工業会
発行責任者: 湯原 孝志

〒105-0004
東京都港区新橋5-25-3 第2一松ビル2階
TEL. 03-6435-8190 FAX. 03-6435-8192

Eメール info@jasma.or.jp

URL <https://jasma.or.jp>

本JASMA会報は、発行後、当工業会ホームページに掲載しております。

2022年6月6日
一般社団法人 日本縫製機械工業会 (JASMA)

国際アパレル機器&繊維産業見本市 JIAM 2022 OSAKA

100社 800小間を超える出展が決定！
パネルディスカッション、社会課題の解決に向けた充実の企画も続々と！

2022年11月30日(水)～12月3日(土)の4日間、インテックス大阪4・5・6号館にて「JIAM 2022 OSAKA」<主催：一般社団法人 日本縫製機械工業会 (JASMA)>が開催されます。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、2020年の開催が見送られたため6年ぶりの開催となる本見本市のテーマは「JIAMから、つながる...～次世代技術と匠の技のコラボレーション～」。

時代や環境の変化、そしてコロナ後に求められる課題解決のグローバル・プラットフォームとして、匠の技術と未来を支える最新技術の融合と協働から、次世代につながる革新的な新製品やシステム・ソリューションを日本から世界へ発信する場を提供します。世界有数の縫製機器見本市の一つである JIAM は、国内外メーカーの最先端技術・製品・サービスが一堂に集結する国際見本市です。大きな注目を集める本見本市は、開催まで半年ある現時点での会場内の残り小間数はわずかとなっています。

■開催規模・出展状況

開催まで6ヵ月となった JIAM 2022 OSAKA。2022年6月6日現在、6ヶ国・地域から109社845小間の出展が決定しています。うち新規出展者は27社(国内14社、海外13社)、海外からはインド、ギリシャ、タイ、台湾、中国から出展申込を受けています。これらの新規出展者は主に裁断・延反・CAMと縫製機器関連を出展します。また、台湾パビリオンには、台湾から16社が出展予定です。新型コロナウイルス禍の先行きが見え始めた今、世界各国では通常ビジネスの再開・回復へ動き始めています。未だ入国規制が残る状況でも、このように多くの海外企業が JIAM 2022 OSAKA への出展を表明していることから、本見本市が国際的なビジネスプラットフォームとして大きな期待を集めていることがうかがえます。

■充実のパネルディスカッション

会期中には11本のセミナーやパネルディスカッションの開催が予定されています。その中でも注目は、11月30日(水)15時から開催予定のパネルディスカッション「アジア・アパレル最前線―日系縫製企業10年間の戦いとこれから」と12月1日(木)13時30分からの「ファクトリーの時代に挑む―ものづくりで日本、世界の市場を切り開く」です。SNSやEコマースの普及は、作り手と消費者を直接つなげ、こだわりや技術力の高さをダイレクトに消費者に伝えることを可能にしました。市場が日本のみにとどまらず世界に広がった今、まさにファクトリーの力が問われています。ファクトリーブランドやD to Cに挑戦しているニット、婦人服、カットソーの代表的な企業にそれぞれの取り組みや課題、今後の展望をお話いただきます。

■家庭用ミシンゾーン

「家庭用ミシンゾーンでソーイング体験！アップサイクル〜つくる責任・つかう責任〜」

体験シェアリングサービスを運営する株式会社 STORY&Co.様による協力を得て、出展企業（JUKI 株式会社、ブラザー工業株式会社、株式会社ジャノメ、JASMA）による B to C 企画「家庭用ミシンゾーン」が登場します。「コールマンのテント生地」を裁断したものを素材に使用し、ソーイング体験を通じて新たな品物に生まれ変わらせます。ゾーン内では、一連の製作過程やアップサイクルに関する動画もご紹介いたします。2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標 SDGs」は、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標、日本でも各分野で積極的に取り組まれ、企業のみならず一般にも広く浸透しています。アパレル業界では、衣料品の大量消費、大量廃棄が深刻な問題となっており、環境省のデータによると、日本で廃棄される衣料品の量は1日あたり平均1,300トンとされています。このような現状に対して、環境省は企業と消費者へ向けてこれからのファッションを持続可能にする取り組み「サステナブルファッション」¹を提唱。そして企業も「つくる責任・つかう責任」の達成に向けた取り組みを始めています。JIAM 2022 OSAKAの主催者特別企画において、関連の深いアパレル業界のSDGsへの取り組みを紹介することは、多くの関係者と一般消費者に学びと新しい価値への気づきの機会を提供し、その先にある持続可能な社会の実現に貢献します。同時に、第42回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール経済産業大臣賞作品の説明パネルの展示も予定しています。

¹衣料の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて将来にわたり持続可能であることを目指し、生態系を含む地球環境や関わる人・社会に配慮した取り組みのこと。

■開催概要

| | |
|---------|---|
| 名 称 | JIAM 2022 OSAKAー国際アパレル機器&繊維産業見本市 JIAM から、つながる... ～次世代技術と匠の技のコラボレーション～ |
| 会 期 | 2022年11月30日（水）ー12月3日（土）10:00ー17:00（最終日は16:00まで） |
| 会 場 | インテックス大阪 4・5・6号館 |
| 主 催 | 一般社団法人 日本縫製機械工業会（JASMA） |
| 出展対象 | 企画・設計・CAD、裁断・延反・CAM、縫製機器、刺繍・プリント・カッティング加工、仕上げ・ランドリー関連、検査・試験関連、ホームソーイング、副資材、素材・縫製品、織り・編み・染色、織物・繊維・不織布、自動車・航空・宇宙機関連、インテリア・家具・住居関連、服飾雑貨・生活雑貨、産業用繊維資材、IT情報技術、物流、設備・装備・環境、教育・人材育成、情報サービスなど |
| 来場対象 | アパレルメーカー、縫製業、繊維・素材メーカーおよび加工業、機械・機器メーカーおよび販売業、刺繍・プリントメーカー・染色・仕上げ業、自動車・航空機・宇宙産業、クリーニング・ランドリー業、副資材メーカーおよび関連業、服飾雑貨・生活雑貨販売、インテリアメーカー、物流業、流通・小売業、製造小売業（SPA）、商社、官庁・団体・大使館、服飾専門学校・学生、一般消費者など |
| 2016年実績 | 出展者数：258社、来場者数：15,257名 |

＜本リリースおよび出展に関するお問合せ先＞

公式サイト：<https://jiam-show.com>

JIAM デスク（メッセフランクフルト ジャパン株式会社内）

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-3-2 曙杉館 7F TEL: 03-6380-8804 / FAX: 03-3262-8442

E-mail: press@jiam-show.com（リリースのお問合せ） / info@jiam-show.com（出展のお問合せ）

